第六方面軍
第十九兵站病馬廠　略歴

年月日	概要
昭九、四、一	軍令陸甲第一四号第一九兵站病馬廠編成下令
四、一	編成業務着手
四、一〇	上海呉淞に於て編成完結
	廠長　陸軍獣医中佐　本間　新一　将校四二、下士官八二、兵四一四
五、一四	中華民国湖北省武昌縣武昌に移駐
五、七	将校以下二五名　江西省九江縣九江に出張所要員派遣
五、一五	将校以下六〇名　湖北省前門縣沙洋鎮に支廠要員派遣
五、一五	将校以下二〇名　湖北省夏口縣漢口に出張所要員派遣
五、二〇	将校以下五五名　湖南省岳陽縣岳州に支廠要員派遣
五、二五	第一一軍病馬廠より業務引継本廠武昌に位置業務開設
六、七	湘桂作戦参加のため部隊の一部（将校以下一九九名）病馬収容班を派遣
二〇、六、一〇	湘桂作戦参加者帰隊
	生死不明者　将校一、下士官一、兵六、戦死二、戦病死九
八、一四	停戦詔書発布

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一〇、九、六	岳州支廠復帰
一〇、五	沙洋鎮支廠復帰
八、二五	復員下令
八、二九	第六方面軍軍馬病理試験部復員合併（将校以下一八六）
九、二	停戦協定締結
二、二、五	漢口出張所復帰
五、一三	部隊の一部（将校以下五〇九）内地帰還のため武昌出発
五、二六	部隊主力（将校以下九八）内地帰還のため武昌出発
五、二九	先発隊上海着
五、二四	部隊主力上海着
六、二	先発隊上海出帆
六、〃	先発隊博多上陸
六、八	部隊主力上海出帆
六、一五	部隊主力博多上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

西部軍

独立自動車第三百十四中隊　略歴

年月日	概要
昭九、二、二五	軍令陸甲第一四号　独立自動車第三百十四中隊編成下令
四、一	久留米市戦車第十八聯隊に於て編成着手
四、二	編成完結
	中隊長　陸軍大尉　福屋政雄
五、二六	中華民国湖北省夏口漢口に移駐
	移駐と同時に小隊電信第二八聯隊に一ヶ小隊を第四師団第一兵站に配属夫々軍需品の局地輸送に従事
九、一五	補充要員として兵三〇名転入
自　一〇、八	中隊の一ヶ小隊を以て奥漢沿線木材緊急輸送に従事
至　一二、二〇	
一一、一	下士官一名を陸軍航空士官学校に転属せしむ
一〇、二、二八	兵五名を第五航空通信隊に転属せしむ
三、一三	衛生兵一名を漢口第二陸軍病院に転属せしむ
自　三、一〇	中隊の一ヶ小隊を独立混成第七十九旅団に配属、湖北省黄坡駅黄坡に於て軍需品の輸送に従事
至　五、一五	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自二〇、六、二〇 至　八一五	中隊の一ヶ小隊をもて第三四軍兵器廠同野戦貨物廠、同野戦自動車廠に於ける軍需品局地輸送に従事
九、二	停戦協定締結
二、五、七	復員業務に着手
五、二七	内地帰還のため漢口出発
六、一	上海出帆
同　日	鹿児島港に上陸し復員式挙行
	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第六方面軍

独立自動車第三百十五中隊　略歴

年月日	概要
昭一九、二、一五	軍令甲第一五号に依り独立自動車第三百十五中隊編成下令
四、一	編成着手
四、二	編成完結
	編成担任部隊西部軍戦車第十八聯隊
	固有部隊名　独立自動車第三百十五中隊
	通称号　号　第一二、五一三部隊
	中隊長　陸軍少佐　森　光之
四、五	戦車第十八聯隊を出発し列車輸送に依り門司に前進同日門司に到着同地に宿営す
四、六	待機
四、七	輸送船守寶丸に乗船門司港を出帆す
四、一三	南京上陸南京兵站宿舎に入る
四、一九	中支派遣軍南京自動車補給廠に於て「トヨタ」四二年式自動貨車三五輌を受領す
四、三	第一一軍司令官の隷下に入る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、五、一二	蕪湖出発ライターに依り揚子江を遡航し途中秋口、安慶、九江、武穴鎮等に寄港しつつ石灰窯に向い前進す
五、二〇	武漢防衛軍の指揮下に入る。
五、二二	石灰窯に上陸し集結す同地に於て指揮中隊の主力は（一小隊　）石灰窯に在りて同地飛行場設定資材の輸送並に地集団補充馬輸送に従事し一小隊は在九江第九野戦補充隊に配属せしめられ同地に於て軍需品の常駐補給輸送に在ず
七、二四	第三四軍司令官の隷下に入る
八、一〇	中隊主力（一小隊　）は新に湖北省監利縣白螺磯第二飛行場（揚林山）設定協力を命ぜらる
八、一二	石灰窯を出発し白螺磯に向い前進す
八、二八	白螺磯到着揚林山に在りて白螺磯第二飛行場設定資材の輸送並に同地附近の警備に従事す
二〇、二、二〇	白螺磯第二飛行場完成し新に白螺磯第一飛行場の補強作業を命ぜらる
二、二二	中隊主力（一小隊　）は白螺磯に在りて白螺磯第一次補強作業並に同地附近の警備に在ず
六、一〇	第一次補強作業完成し第二次補強作業に着手す。
六、二七	陸軍中尉岩永輝義独立自動車第三百十五中隊長に補せらる。
八、一四	停戦詔書発布

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、二　停戦協定締結
一〇、三　漢口日第三四軍司令部に集結
二、三〇　揚子に移動
三、五、七　帰還の為漢口出発
五、一〇　上海到着
五、三〇　上海出帆
六、二　鹿児島上陸
　　事故者死亡者四、入院八
六、一〇　復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十四軍野戦兵器廠　略歴

陸軍中佐　吉田敬太郎

年月日	概要
	部隊編成完結の状況
	昭和二十年軍令甲第十八号に依り第三十四軍野戦兵器廠の編成下令せらるるや前年第十一軍野戦兵器廠にて臨時編成し当時第六方面軍指揮下に在りし武漢野戦兵器廠を基礎として之に各兵団部隊よりの充足の人員を加え
昭二〇、三、五	編成着手
三、三一	一部人員の不足の為編成を完結す
	部隊行動の概要
	概ね武漢野戦兵器廠其の機能勢を以て編成以来主力を武漢地区に置き支廠出張所を岳州、九江、沙洋鎮其の他に置き第三十四軍自体の兵器の補給に任ずると共に方面軍作戦に対する武漢地区よりの中間補給を担任し終戦に至る　終戦後は岳州支廠人員の一部及九江出張所を除く外逐次兵力を武昌地区に集結し中国第十一兵工廠に日雇雇員として留用せられ中華民国湖北省武昌縣武昌に於て工場業務、倉庫業務及工程作業に従事し
二、五、二五	帰還乗船命令と共に留用を解除せられ
五、二六	武昌出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、二四　上海着
六、二六　上海港出帆
六、二七　珊瑚港上陸
六、二九　珊瑚領事館援護所に於て除隊、召集解除せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十四軍野戦自動車廠

陸軍中佐　井阪政治

年月日	概要
	編成完結並に其後の状況
昭二〇、二、一	軍令陸甲第十八号第三十四軍野戦自動車廠臨時編成下令
三、四	編成業務着手
三、三	漢口編成完結
	廠長　陸軍中佐　井阪政治　以下将校七四名、下士官一四四名
三、三	矢一、三三五名
	中華民国湖北漢口漢陽口に駐留
自 三、三	裏婆作戦並に其の後の警備に伴う自動車業務
至 八、一四	
五、三	第五旅団陸軍矢長　新川孝雄以下四〇〇名　呂武集参三一九に拠り当隊に到着
七、一七	第十一旅団陸軍矢長　平　義照以下二五〇名　呂武集参第三一九号拠り当隊に到着
七、二〇	雇員南忠一以下六名中国派遣軍雇傭規定十五条四号に拠り解雇傭す
日	陸軍技術軍曹南忠一以下六名現地於て召集

0457

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、二四	雇員小林仙太郎以下六名召武集副第一五二号により解雇廃す
八、一四	停戦詔書発布
八、二五	復員下令
九、二	停戦協定御諚
一〇、七	第六十八師団陸軍一等兵三木日吉以下五七名当隊に転属す
二、二四	本隊佐々木大尉以下八〇九名華容鎮地区に移駐
	華容鎮地区隊　陸軍大尉佐々木時美以下七七三名復員のため現駐地出発
三、四、二九	上海到着
	九江出張所陸軍大尉北野信郎以下一〇〇名復員のため現駐地出発
五、二	上海到着
	本隊陸軍大尉永井小一以下七三〇名復員のため現駐地出発
五、二三	上海到着
	主力陸軍中佐井阪政治以下一六九名復員のため現駐地出発
五、二六	上海到着
五、二八	陸軍大尉佐々木時美以下六七九名内地帰還のため上海港出帆
六、四	仙崎上陸　同日内地除隊（召集解除）者六七九名
五、三〇	陸軍大尉北野信郎以下一〇〇名内地帰還のため上海港出帆
六、一〇	佐世保上陸　同日内地除隊（召集解除）者七三〇名
六、一四	陸軍中佐井阪政治以下一六九名内地帰還のため上海港出帆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二、六、二	博多上陸同日内地隊（召集解除）着一六九名 部隊残務整理者　班長以下　五名 内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十四軍野貨物廠　略歴

陸軍主計大佐　国井　真市

年月日	概要
	編成完結の状況
	昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り武漢防衛軍指揮下武漢野戦貨物廠（第十一軍野戦貨物廠の約三分の一）を基幹とし主として武漢地区駐留各部隊要員を転属充足して編成せられ
三、三一	漢口に於て編成完結す　但し勤務中隊、被服、征生材料、獣医資材の各移動修理班工場班材料班製材班他自活班等は充足人員の不足の為編成するに至らず
	行動の概要及日時
自昭二〇、三、三一 至　八、一五	湘桂作戦に対する糧秣被服帯品酒保及征生材料、獣医資材の蒐集現地生産、格納、保管補給に任ず尚対日供給物資（軽工業、非鉄金属、油脂等）の検収保管還送業務に任ず 右業務実施の為左の機関を設置す 漢口本廠、武昌支廠、岳州支廠九江出張所、沙洋鎮出張所、信陽出張所　興滅

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	蘇潤弁所、廣水潤弁所、新塘派出所、白螺磯派出所、潤弁所三
	情況の悪迫に伴い軍需品の分散、防空壕、洞窟の掘開、工場疎開等対爆作業し強行すると共に生産工場の企業整備（生産品種の集約強化）に任ず
自昭二〇、八、二六	終戦後に於ける必需物資の収集生産並補給に任ず
至 九、三〇	保有兵器軍需品及生産工場の中国側接収に万遺漏なき如く処理し九月六日以降に接収を終了す
	統作命丙第八四号に依り衛生材料部は漢口に於て、第十一軍、第二十軍の該要員と併せ第六方面軍直轄武漢征生材料部に編入中国側衛生材料の保管補給整備に協力す。
自昭二〇、九、二九	
至 二、四、八	
四、八	統作命丙第一六号に依り直轄を解除せらる
自 二〇、一〇、一	部隊主力は揚子集結地区に移駐し爾来一般労役に服す
至 二、三〇	此の間回結、指揮掌握の便を顧慮し部隊主力（揚子集結部隊）を三箇大隊に編成す。

0461

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自昭二〇、一〇、一 至昭二一、四、三	残務整理の為一部漢口勤務隊を残置す、該部隊は整理終了後中国側倉庫業務に服す
自昭二〇、一〇、三 至昭二一、五、一	統制命令第八五号に依り獣医資材部は漢口に於て第二十軍の該当要員と併せ第六方面軍直轄武漢獣医資材部に編入中国側接収の獣医資材の保管補給整備に協力す
昭二〇、九、二〇	九江出張所は保管庫需要を中国側に引継き爾後中国軍に交付する衣糧、衛生材料の補給を担任す、復員は第十一軍司令官管理の下に別途準備す
自昭二〇、二二、一 至昭二一、四、三	部隊主力（揚子集結部隊）若干容鎮に移駐し道路補修作業其他一般労役に服す
昭二一、一、一〇	団結、指揮の強化を顧慮し出身府県別に応じ二ヶ大隊編制に改編すると共に漢口残留隊を第三大隊に編成す
	揚子集結間糧食の補給円滑を欠き相当の困難を招来したるも将兵団結し克服す
昭二一、四、三	在華容鎮主力の一部（藤枝梯団第三、五、七中隊）泥磯より乗船（国祥丸）南京に向い出発す
昭二一、四、三	在華容鎮主力（一、三〇九名）泥磯より乗船（江建丸）南京に向い出発す
	在漢口残留隊（第三大隊（第一九中隊欠）四七五名）漢口より乗船南京に向

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、五、二	い出発す
	在漢口、獣医資材部（第一九中隊一二五名）漢口より乗船南京に向い出発す
五、三四	九江出張所（八七名）九江より乗船南京に向い出発す
	南京到着
	主力（一、三〇九）
四、三五	一部（竜井隊二二八）
	漢口残留隊主力（第三大隊四七五）
四、三六	獣医資材部（第十九中隊一一五名）
五、七	九江出張所（八七）
五、二九	上海到着
	主力（一、二九九）
四、二八	一部（竜村隊二八三）
五、七	漢口残留隊（第三大隊四七五）
五、四	獣医資材部（第十九中隊一一三名）
五、二	九江出張所（八七）
五、三〇	上海出発
五、一〇	第三大隊（第一九中隊欠）四六四名長佐藤薫剛中、佐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、二　廠本部、第一大隊（第三、五、七中隊欠）第二大隊
一一九九名　長　巨主計中佐
五、三　第三、五、七中隊　二七一名　長　藤村主計中尉
六、二　廠本部主力第一九中隊　長　廠長　國井主計大佐
六、一六　九江出張所　八七名　長　中島主計大尉
內地港灣上陸
五、七　佐世保　第三大隊（第一九中隊欠）四六四名
五、八　仙崎　廠本部一部第一（第三、五、七、中隊欠）第二大隊一、一九九名
六、一〇　鹿児島　第三、五、七　中隊　二七一名
六、二　鹿児島　廠本部及第一九中隊　一七五名
六、二九　浦賀　九江出張所　八七名
內地歸還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設工兵第五中隊略歴

陸軍大尉　山崎弘二

年月日	概要
昭二〇、三、一〇	軍令陸甲第一八号に依り元独立混成旅団にて編成せる特別第五飛行場設定隊を基幹人員として編成せらる、編成担任部隊第三十四軍　於支那湖北省当陽驛留陽
自昭二〇、四、三　至四、二九	工兵第三九聯隊長の指揮下に入り裏奥作戦参加
自四、二九　至五、一	第三九師団歩兵第二三聯隊長の指揮下に入り湖北省荊門に於て道路作業並に輸送業務従事
自五、二　至七、一〇	第一三師団長の指揮下に入り湖北省荊門に於て耐爆施設構築作業並に輸送業務従事
自七、一三　至八、一四	第三四軍野戦自動車廠に配属せられ湖北省黄陂縣揚子に於て耐爆施設構築作業従事
八、一五	揚子地区集結
二、七	湖北省鄂城縣華容鎮地区に移駐集結
昭二一、四、一〇	復員のため華容鎮出発
四、三	上海出発
四、二七	鹿児島上陸
四、二七	復員式終了
四、三〇	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設工兵第六中隊呂武第一七七五六部隊略歴

陸軍大尉　佐藤福三郎

年月日	概要
昭三〇、三、一〇	軍令陸甲第一八号に依り編成完結 編成定員　二〇〇名 大尉一　中少尉四　准尉二　曹長二　軍伍一四　兵一七二 主計下士官一、工生下士官一　工生兵三 編成基幹人員　三八名 大尉一　准尉二　軍伍三　兵二九　主計下士官一　工生下士官一　工生兵一 三月十日現在人員三十八名にて編成完結す 場所　湖北省荊門県荊門 編成後の隷下
自昭二〇、三、七 至　四、九	襄樊作戦に参加
自　四、三 至　七、五	湖北省當陽県太山廟附近警備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭三、七、三	漢口花湾附近の対爆施設
至 八、四	
九、二	漢口場子に集結
二、三	湖北省鄂城県草容鎮に集結
昭三、四、一〇	内地帰還のため右地出発
四、三	上海港出帆
四、九	佐世保港上陸
	部隊解散

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十軍特設工兵第七中隊略歴

年月日	概要
昭二〇、三、一	軍令陸甲第一八号特設工兵第七中隊編成下令
三、二	編成業務着手
三、一〇	漢口に於て編成完結
	陸軍中尉岩田善治以下将校二名下士官八名兵九四名
三、二	漢口市附近に在りて飛行場設定業務
五、三	湖南省長沙縣岳麓山に移駐弾薬集積場爆破作業
七、五	長沙県三叉塘に移駐同地附近の道路作業
七、三	湖南省湘陰縣新市に移駐同地架橋作業
八、一四	停戦詔書発布
九、二〇	長沙縣浦刀市に移駐
	陸軍大尉　岩田善治
一〇、二	長沙県九福鄉莫家橋に移駐

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、五、一〇	内地帰還のため同地出発
六、二七	上海出帆
七、六	浦賀上陸

ク外

中支その四

(456)

0469

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十八兵站病院略歴

陸軍軍医大佐　堀田邦之助

年月日	概要
昭二〇、三、一	昭和二十年軍令陸甲第一八号に基り漢口第一陸軍病院復帰並第百五十八兵站病院編成下令
三、五	第百五十八兵站病院編成並に漢口第一陸軍病院の人員建物及諸物件にその儘継承えに若干の人員ありて編成完結即日収療業務を開始す
〃、	開設以来一般傷病者約五〇〇〇名　死亡患者四〇〇〇名を算せり
〃、	漢口地区に「コレラ」散発し防疫処置厳確に実施し当院に於て其の侵入を防止せり
昭二一、二、四	当院にも五名の「コレラ」患者発生せしも防疫処置厳正にして完全に終熄せり終戦後は再ら復員業務就中入院患者の恩典関係書類の完備を図り
三、四	
二	患者及転員の復員を逐次実施
七、六	上海港出発

0470

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三一七三〇	浦賀港上陸 復員を終了せり 内地帰還時主力を分離し復員した一部部隊の器屋は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院略歷

年月日	概要
昭一六、六、二六	部隊の前身は第十一軍の隷下たる第四兵站病院と第一四兵站病院との合併に依るものにして昭和十六年軍令陸甲第甲第二五号に據り武昌陸軍病院として中支那湖北省武昌縣武昌に於て編成せられ支那派遣軍に隷屬第十一軍の指揮下に入らしめらる
昭二〇、三、五	昭和二十年軍令陸甲第一八号に據り第百五十九兵站病院と改稱せられ第六方面軍に隷屬第三四軍の指揮下に入らしめられ依然武昌に位置し夫々所要の分院並に分病棟を開設し患者の收容後送業務に在ずるの外浙贛作戦常德殲滅作戦長沙作戦、漢水作戦等に一部人員を參加せしめたるも終戦後
九、九	武昌出発上海に転進第十三軍の指揮下に入らしめられ
一〇、六	同地に於て病院を開設復地患者の收療後送及病院復員業務を実施
六、二〇	第一三軍命令に據り上海出帆
七、一	佐世保上陸
	復員完結す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院　第四兵站病院略歴

陸軍軍医中佐　栗田愛之助

陸軍軍医少佐　小林幸五郎

年月日	概要
昭一三、七、	名古屋陸病に於て編成
自　八、	於九江県九江
至　三、	
自　一三	於武昌県武昌
至昭一六、七	
昭一六、六、二六	昭和十六年軍令陸甲第二十五号を以て部隊復員並に中支那陸軍病院編成下令
七、九	復員ヲ一日
七、二五	復員完結す

0473

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院 第十四兵站病院略歴

陸軍軍医中佐 鵜沢修一

陸軍軍医中佐 大杉保枝

年月日	概要
昭三、二、	久留米陸病に於て編成
自二	於上海
至昭三、六、	
自六	於南京
至昭四、二、	
自二	於九江県九江
至八	
自九	於武昌
至昭六、七	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院 武昌陸軍病院（編成中）略歴

陸軍軍医少尉　江口六郎

陸軍軍医大佐　荒田菊次

陸軍軍医大佐　永松三男

年月日	概要
昭一六、六、二六	昭和一六年軍令陸甲第二五号を以て第四兵站病院復員並武昌陸軍病院編成改正下令
七、九	編成第一日
七、二五	編成完結
自七、至昭一〇、三、	於武昌

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院（編成甲）略歴

陸軍軍医大佐　永松三男

年月日	概要
自昭二〇、三 至　九	於武昌
自　〃	於上海
至昭二、六 昭二〇、三、五	昭和二十年軍令陸甲第一八号に依り在支部隊臨時編成（編制改正）要領に依り編成改正の結果武昌陸軍病院を第百五十九兵站病院と改稱せらる
九、八	第百八十一兵站病院に引継ぎ部隊は上海に転進同地に於て病院を開設上海命第四一号により
昭二一、六、三	建物及施設を第百八十一兵站病院に引継ぎす

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百五十九兵站病院附
予備役 陸軍少佐 関谷重孝

年月日	概要
昭三、一、一〇	上海病院繃隊中一次輸送患者護送指揮官として患者七七〇名を雲仙丸に乗船せしむ
	患者差出区分
	一五九兵站病院 二一五名
	一七三 〃 二七五名 一次の分
	一九二 〃 二八〇名
	護送員
	患者輸送隊 小野大尉以下 六九名
	上海病院繃隊 西沢少尉以下 三名
	一五九兵站病院 関谷少尉以下 二〇名
	一七三 〃 宇賀田少尉以下 一九名
	一九二 〃 今泉大尉以下 一四名
昭三、一、一五	博多港上陸
	患者を小倉及筑紫病院に入院せしむ

0477

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、一、五	苅谷少尉以下四七名を召集解除し患者輸送隊は宿舎下を離る、
一、九	関谷少佐以下九名残留二日市にて勤務するも六名を召集解除せらる
一、三	残務整理を完了す
	残務整理者　召解
	関谷　少佐　（一五九兵病）
	宇賀田大尉　（一七三兵病）
	今泉　大尉　（一九二兵病）
	その他残務要員
一、九	山比　伍長　二日市召解
	鈴木　准尉　二日市召解
	古屋　曹長　二日市召解
	小谷　曹長　二日市召解

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十一軍第百七十七兵站病院略歴

陸軍軍医中佐　東屋一歩

年月日	概要
昭二〇・三・五	軍令陸甲第十八号に依り第百七十七兵站病院編成下令
	九江陸軍病院を基幹とし中華民国江西省九江縣九江に於て編成完結
	中華民国江西省九江縣九江に位置し大東亜戦争戦傷病患者収療業務及その他衛生の勤務に従事す
	九江陸軍病院より引続き中華民国江西省南昌県南昌
自昭五・四・五	湖北省大冶縣石灰窯
至　二〇・六・二〇	
自昭五・八・一〇	に夫々患者療養所を開設同地附近の患者収療業務の遂行
至　二〇・七	
昭二〇・八・一四	停戦中華民国江縣九江に位置三月間両軍の収療並設療及復員業務に従事す
昭二一・五・二〇	内地帰還の多忙送患者の護送しつつ中華民国江西省九江縣九江出帆
六・三	中華民国江蘇省上海に於て患者収療業務及復員準備
七・四	中華民国江蘇省上海出帆
七・三	神奈川県浦賀港上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、五　神奈川縣浦賀町中台援護所内に於て復員す

内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百七十八兵站病院略歴

陸軍軍医大佐　中間現千代

年月日	概要
昭二〇・三・五	第百七十八兵站病院は軍令陸甲第一八号在支部隊臨時編成（編制改正）第三百二十二次復帰（復員）要領に依り漢口に於て漢口第二陸軍病院の主力及新に配属せられたる兵科衛兵要員を以て編成す 編成完結時に於ける編成人員左の如し

階級別＼区分	定員	三月五日現在	過（不足）	摘要
軍医大佐	一	一	〇	
軍医中佐	一	〇	（一）	
軍医少佐	四	二	（二）	
軍医大尉	一四	一八	四	
軍医中（少）尉	一	〇	（一）	
薬剤少佐（大尉）	二	二	〇	
薬剤官	一	〇	（一）	
衛生大尉				

0481

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

衛生中(少)尉	二	一	(一)	
歯科医将校	一	一	〇	
衛生准尉	給与係 一	一	〇	
衛生下士官	四〇	三六	(四)	現在員中婦長四を合ず
療工(准)下士官	三	一	(三)	
衛生兵	二一二	一九九	(一三)	現在員中看護婦三〇を合ず
主計尉官	一	一	〇	
主計下士官	三	一	(二)	
兵科曹長	一	一	〇	
兵科軍曹(曹長)	四	四	〇	
兵科兵	四〇	四〇	〇	
馬取扱兵	一	〇	(一)	
計	三三三	三〇九	(三四)	

「備考」

編成完結時軍より配属を受けたる人員左の如し

日本赤十字社外四四一　四四三、四四四、五四一　五四三枚護班外七師団外

七陸上輸卒隊一ケ班

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭二〇、三、五	漢口に於て駐留間の業務に従事武漢地区病院収容態形に基き部隊主力は漢口
至 八、一五	に位置し漢口駐屯部隊及通過部隊並に湖南方面よりの後送患者の収療に任す
五、三	対空防護の目的を以て孝感（京漢線）に分病室を開設（収容力約八〇〇名）
	一般軽症患者及孝感地区部隊患者並に通過部隊患者の収療に任す
自昭二〇、三、五	本期間に於ける収容患者は戦傷一〇六名平病四〇〇七名伝染病七八一名
至 八、一五	計四八九四名有り
昭二〇、九、毛	統作命甲第五十一号に基き一切の軍用資材を中国第六戦区司令長官に接収せ
	られたる後兵器（支通通信器材を除く）を除く他悉皆貸与され爾後第六戦区
	武漢区月本官兵病院管理所の管理下において病院長の統率の下に収容制を維持
	し患者の収療業務に任す
昭二一、一、二五	統作命第六号に基き部隊は復員帰還に際し第六方面軍に於ける最後発病院と
	して本来の業務を続行すると共に復員帰還準備に移行す
三、二〇	部隊は一部の人員を以て漢口に於ける復員部隊乗船時救護担任実施す
	収療患者を護送しつつ内地帰還を命られ駐留地を出発す
六、毛	内地帰還のための漢口出帆
七、一	部隊の一部は収容患者を護送しつつ内地帰還のため上海出帆
七、二	部隊主力は内地帰還のため上海出帆す

0483

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、一〇　部隊の一部は患者を護送し博多に上陸
六、一一　同日反
六、一二　並に残務整理者は
六、一三　夫々除隊召集解除さる
七、一五　部隊主力は浦賀に上陸
七、二四　部隊主力は除隊召集解除され部隊の編成を解く

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立有線第百十六中隊略歴

代理陸軍省　稲　徳　蔵

年月日	概要
昭九、八、五	昭和一九年七月二九日軍令陸甲第百二号に依り独立有線第百一六中隊陸軍大尉加治重之以下参百拾名を以て編成完結す
八、二八	東部軍司令官の隷下に入る
自昭一九、八、六 至 一三、三〇	電信第一聯隊補充隊長の指揮を受け本土防衛通信に任ず
昭九、二、三	中支那派遣を命ぜられ電信第一聯隊補充隊出発
昭二〇、一、九	東部軍司令官隷下を脱し第六方面軍司令官の令下に入る
三、一三	中支那武昌着第三四軍通信隊長の隷下に入る
三、三	第三十四軍通信隊長の指揮下を脱し第五通信隊長の隷下に入る
自昭二〇、四、一 至昭 七、五	中支武昌に在りて無線反対教育訓練実施並警備に任ず
昭二〇、七、六	第五通信隊朝鮮へ転進を命ぜられ当中隊、独立有線第百一七中隊の一部を以て第二梯団となりて中支、武昌出発す
八、四	復員下令
八、五	停戦協定締結

0485

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、四	停戦協定締結
九、四	北支、天津に在りて輸送停止、北支百十八師団長の指揮下に入る
自 九、五 至昭三、一、三	北支、天津に在りて終戦業務、米軍使役、並に復員準備業務に従ず
昭三、一、元	北支、天津出発
二、三	佐世保上陸　復員完結　事故なし
	内地帰還主力と分離し復員した一部部隊の略歴は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二臨立鉄道橋梁大隊

年月日	概要
昭一九、四、一	軍令陸甲第九号ヲ以テ臨立鉄道橋梁大隊編成下令
四、一〇	編成業務着手
	哈爾浜編成完結
五、一四	大隊長陸軍少佐神戸又下将校一六名下士官九七名兵四六二名
六、三	中華民国湖北省武昌ニ移駐
	中華民国湖南省岳陽及岳州ニ移駐
自 六、一四 至 三、九	湘桂作戦（第一、二期）ニ参加岳州南方一帯道路鉄道橋並ニ木鉄道橋建設
	戦死兵七名　戦病死　下士官二名　兵一九名
九、三八	昭和一九年後期現役兵一四八名入隊
自 一三、一〇 至 昭二〇、四、三〇	湘桂作戦（第三期）ニ参加　衡陽県耒河鉄道橋建設　戦病死四名
自 五、一 至 六、三六	湘桂線沙灘橋、韓門寺橋　自沙州橋の重修理作業
	戦死下士官二名　兵五名　戦傷死兵一名　戦病死兵四名

0487

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自 六、三	河南省信陽県漁河鉄道橋及王家店橋梁復旧作業
至 六、一	戦死兵三名　戦病死兵六名
自 九、二	湖北省応山縣鄧家河鉄道橋復旧作業に従事す
至 九、三	戦病死兵六名
昭二一、一、八	大隊長　陸軍大尉　井村邦典
自 二、六	河南省遂平縣南沙河鉄道橋並に祝家湾鉄道橋修理作業
至 五、三	戦病死　下士官二名　兵一八名
昭二一、五、一〇	復員帰還の為漢口集結
五、一	漢口出発
五、五	上海到着
六、六	大隊長陸軍大尉井村邦典戦犯容疑者として上海残置のため陸軍大尉斉六郎大隊長代理
	上海出帆
六、九	佐世保上陸
七、	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立自動車第八十一大隊略歴

陸軍少佐　松浦万吉

年月日	概要
昭一八、八、三	軍令陸甲第大九号により独立自動車第四十九大隊長編成担任官となり独立自動車第二百五十一、第二百五十二、第二百五十三中隊を編成改正一部を転入補充に依り牧丹江自動車第二聯隊に於て編成完結す
	同日第一方面軍司令官の隷下に又第三軍司令官の指揮下に入らしめられ駐屯市を牧丹江市興隆区と定められる
自昭一八、八、三 至昭一九、八、三	牧丹江附近の警備並に輸送
昭一九、八、九	出動下令
八、三	駐屯地牧丹江出発
九、三	華北国境（山海関）通過
	同日第三軍司令官の指揮下より除かれ派遣軍総指令官の指揮下に入らしめられる
九、一〇	第六方面軍戦斗序列に入らしめられる
一二、六	湖南省湘潭縣上田沖到着同日より易徐河衡陽間の輸送並に警備

0489

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、五、五	板作命甲（第二十軍）第一六五号に基く部隊転用に伴う輸送及行軍
六、二	長沙着
	向日より長沙附近の警備
七、二六	長沙出発
八、一〇	岳州着
自昭一九、二、五	湘桂作戦参加
至昭二〇、二、八	
自 三、一	湘西作戦参加
至 六、一	
昭二〇、八、四	降戦に関する詔書発布
八、五	復員下令
〃 一二、二六	湖北省鄂城県華容領着
昭二一、四、一〇	華容領出発
五、八	上海出帆
五、五	佐世保上陸
	復員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(478)

0491

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp